

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770302186		
法人名	医療法人協仁会		
事業所名	グループホーム第2なごやか		
所在地	寝屋川市黒原城内町25-7		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭の畑も3年目となり、色々な野菜作りに挑戦しています。今年も6月に、ご家族・地域・ボランティアの方・包括の方を招いてじゃが芋Ptを開催しました。地域の方より「今年も呼んでや！」と声を掛けて頂ける行事の一つになりました。今年度の新しい取り組みとして、入居者の方が自己決定できる環境作りを取り組んでいます。またご家族の方に、現状の入居者の方の身体状況や認知症等をより理解して頂き、ご家族の声が(思い)が聞けるようにと、2ヶ月に1回発行している「ひだまり」新聞と一緒にモニタリング用紙を送付(来訪時に渡す)している。地域の繋がりがとして、消防避難訓練を校区の消防団の方と一緒に行う事により、施設の建物の構造や入居者の方をより理解して頂けた。「安心と希望の委員会」では校区のひとり暮らしの高齢者の見守り活動支援を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営母体であり、医師による月2回の往診や併設の訪問看護師による週1回の健康チェック等医療連携体制は充分であり、利用者本人やその家族に安心感を与えていて、医療・介護の一元化が実現出来ている。開設されて7年余が経過し、地域にも充分溶け込み、地域からも必要な施設として認められている。非常災害時の避難訓練にも地域住民や地域消防団が参加している。又、和光校区の「安心と希望の委員会」に参加し、社会福祉協議会や地域包括支援センター、市高齢介護室とともに地域の高齢者福祉に取り組んでいる。ホームの基本方針として、職員は利用者に対して笑顔を絶やさず愛情をもって接するように徹底されており、そのせいか職員間のチームワークも良く、ケアについて少しでも問題点があれば、お互いにアドバイスするチームワークも育っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員が理解し、年間目標を職員で話し合い、具体化させる事により職員の意識付けを行い、日々のケアに努めている。	当ホームの運営理念として、「1.人権の尊重と安全と声明を守る 2.より質の高いサービスの提供 3.家庭や地域に開かれた施設」と定め、職員もその実践に励みつつ、地域住民にも理解を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会や、地域行事に参加させて頂いたり、地域のボランティアの方と一緒に、社会参加を意識し毎週月曜日防犯パトロールを行なっている。	開設して7年余が経過し、地域にしっかり認められるホームとなっている。地域の食事会やもちつき会、花火大会等を楽しんだり、ホーム側からも敬老会の開催や菜園の野菜作りを手伝ってもらったり、防犯パトロールにも協力している。地域ボランティアも充分活用し、中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「安心と希望の委員会」のメンバーとして、認知症の理解、またひとり暮らしの高齢者の見守り活動を校区の方に広めるよう活動を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・ご家族の方の要望・意見等を行かせるように、自治会長・包括支援センターの方等にアドバイスを頂いたり協力を得てサービスの向上に努めている。	地域自治会長の協力を得て必ず出席して貰い、原則奇数月に開催し年6回開催している。行政からは地域包括支援センター、ホーム側から法人の介護事業部長や管理者及び入居者家族等が出席し、有意義な意見交換会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「安心と希望の委員会」のメンバーは、行政・校区福祉委員・社協・2つの施設・病院のメンバーで構成されており、毎月1回会議を行い、意見交換を行なっている。	毎月1回開かれる和光校区地域協働協議会のなかの一つ「安心と希望の委員会」に参加し、意見交換をしたり情報を得たりしている。この会は地域包括支援センターや市の高齢介護室等が参加して大変有意義である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受講し職員の身体拘束に対する意識も高い。玄関の鍵についてはデメリットあり、門扉の位置を変え開放的に過ごして頂けている。1ヶ月前より1Fのドアを開放検討中	毎年1回は身体拘束の弊害についての職員研修を実施し、現在は身体拘束の無いケアが実現出来ている。安全上玄関は施錠しているが、見守りケアに徹し日光浴等外へ出たがる利用者については、その都度対応するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には法人内の研修を受講し意識を高めてもらっている。行政からの虐待等の困難事例ケースも積極的に受け入れを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設にも自立支援事業を受けている方3名、後見人制度を活用されている方現在1名いる。今後も必要な方には相談に乗り支援を行なって行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、運営規定や利用契約書・重要事項説明書等を明示、説明を行いご理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等には出来る限りコミュニケーションの機会を持ち意見や要望等を気軽に言って頂ける様努めている。意見箱の設置し運営に反映させている。	ケアやサービス及び職員の接遇に関する意見については、利用者からは何気ない会話から汲み取る努力をしている。家族からは来訪時にお聞きしたり、2ヶ月に1度お送りする「モニタリングシート」に記入して貰う等工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションに心掛け、毎月行なっている会議で意見交換を行なっている。また委員会を細かく設ける事で各方面からの意見や改善をスタッフと共に進めている。	毎月1度の職員会議で個別ケアの相談かたがた運営に関する意見を聞き出している。又、職員間で行事、レクレーション、感染環境、壁画・写真等の行事委員会を設立し職員の自主性を重んじている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年給与の引き上げを行なっている。人事考課を法人全体で取り組んでおり、職員のやりがいに繋がるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議時に、常勤や看護師またスタッフが講師となり学習会を行なっている。また、力量に合わせた研修会にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設や包括等と情報交換等行なったり、包括主催の研修会等参加しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前家族・可能なら本人に見学に来て頂き、話を聞くようにし、入居時少しでも不安のない様な環境作りを行なっている。入居後はできる限り寄り添う時間を多く持つ様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学して頂き、施設等の説明を行い、ご家族の話を聞き不安や要望に応えられるように努めている。入居前何でも電話の相談も受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、支援方法を見極め、できる限りの支援を行い、当施設だけでは困難な時は、法人内の多機能性を利用し支援を行う。または包括等に協力を得るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の自己決定により、生きがいや役割を持てる環境作りを行い、その中で互いに学び助け合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会現状の様子を伝えたり、ご家族の要望を聞いたり話しやすい環境作りに努めている。各月新聞を発行し、モニタリング用紙にて個々の様子や要望を聞く様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に連絡を取ったり、散歩途中に声を掛けに行ったりと心掛けている。また面会しやすい雰囲気作りに努めている。	馴染みの人として、兄弟や知人・友人が面会に来られるのでホームとして歓迎している。又、その方々に対して手紙や電話をかける支援もしている。馴染みの場所としては、利用者個々に色々あり、個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解し、スタッフが援助を行なったり、趣味や特技を活かし、入居者同士が共感したり学び支え合うような環境作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、電話や手紙で現状を尋ねたり、面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中で個々の希望する暮らしや意向を聞き、また読み取りケアに努めている。	他のサービスを受けていた利用者については、その事業者から情報を引き継いでいる。市の紹介で病院等から直接入居する利用者は、まずスキンシップを心がけ、不安感を取り除く工夫をしつつ、これからの暮らし方の希望を聞き出し、かつ入居してからの満足度等をモニタリングしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前のケアマネ・民生委員・知人・後見人の方に生活歴等の情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画や日々の状態の変化や気づき等を記載、報告し合い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月に1回モニタリングを行い、家族や本人、スタッフ等の評価・意見・要望を聞き、変更が必要な時はカンファレンスを開催し計画の変更を行なっている。	本人本位のケアプランを立てるため、最初のアセスメントシートや家族の要望を参考にし、ケアマネージャーを中心にカンファレンスを開いて立てている。モニタリングは2ヶ月に1度実施し、ケアプランの追加や変更については、原則3ヶ月に1度検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや記録を残し情報の共有化に努めている。またスタッフは受け持ちの入居者には、特に意識を高めケア等に対しての情報・アイデアの提供を行い見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があればその都度検討を行い、当施設での支援が困難な時は、法人内の多機能性を活かし対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と防犯パトロールを行ったり、体操や新舞踊・傾聴・音楽療法・紙芝居等のボランティアを利用し、心身共に安心して豊かになれるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や歯科等は法人内での定期的な診察や、往診を受け、希望時や必要に応じてご家族等の希望する病院に受診して頂いている。その都度お互いに必要な情報を共有している	希望および必要時は法人内の小松病院や小松クリニック等で診療を受けている。定期的に週1回口腔ケアを、月1回定期検診・往診も受けている。結果は個人情報カルテに記載・保存され、投与薬の変更などの重要な情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師に健康チェックを行ってもらい、日々の状態を報告し、助言をもらったり、必要な処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者と	法人内の病院に入院する事が多い為、面会したり病院関係者と情報交換や相談を行い、状態が落ち着けば早期退院に向け受け入れ入れなどで協働を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時不安のないように説明を行い重度化や終末期等には、医師・看護師・家族・職員等を含め、その方の状態や希望に応じその後の方向性について話し合い支援している。	入居中、異変を感じた折はお話する。不安が先立つように感じた時は経過を見ながら、タイミングを見て別紙「看取り指針」に沿って家族には医師が説明されている。身体状況を電話などで連絡した時はいつ誰にどのように連絡したかを記録されている。終末ケアのケース1、2例の経験あり。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による学習会やSM改善委員による転倒時の対応等の学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防非難訓練を行い、昼夜の避難方法の確認している。そのうちの1回は地域の方、校区の消防団の方と一緒に避難訓練を行っている。	鉄骨2階建て、スプリンクラー設置、風呂のみ都市ガス・他のエネルギーは電気使用。災害・防火対策の訓練なども消防団となど、地域ぐるみで実施されている。和光自治会との連携も良好で話し合い、地域の住民が常時、気にかけて支援してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには常日頃から、スタッフが自覚を持ち、またスタッフ間で注意できる関係作りに努めている。個人情報については、保管場所を決め取り扱いには十分配慮を行なっている	入居者の人格を尊重し、散歩や入浴支援の時話し合い、その方の思いを聞き出すようにしている。情報は職員間で共有。言動に関してはスタッフ間でお互いに注意しあっている。個人情報には鍵のかかる戸棚に保管管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の援助の中で、入居者の思いや希望が話せ、また話しやすい雰囲気作りに心掛け、自己決定できるよう支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まっていあるが、個々の自己決定により個々のペース・好みで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により近所の美容室に行ったり家族の方と馴染みの美容室に行ったり、また希望があればカットをしている。好みの衣類を買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理や片付けが得意な方にお手伝いを願ったり畑で収穫した野菜を使い、1. 2階合同で食事会をし楽しみの場を提供している。	食材業者よりメニューと共に食材が搬送され、スタッフが料理している。時には得意な利用者さんが一緒に盛りつけ等で参加されている。毎食の下膳は個人に応じたお手伝いをされている。施設内敷地の畑で収穫の野菜も食卓に上がる時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量をチェックし記録に残している。糖尿病の方が6人おられDr指示により食事コントロールを行なっている。個々に合わせ食べやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促し、自分でできない方にはスタッフが行なっている。今年度より、必要な方・希望者等は週に1回、歯科衛生士さんに口腔ケアを行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるようにチェック表を付け、自ら訴える事の出来ない方は排泄パターンに合わせ誘導を行ったり、声掛けを行なっている。	利用者の仕草・表情、排泄チェック表などから排泄パターンを把握し、声掛けやトイレまでの誘導を行っている。また、夜間の見回りの折も様子を見ながら自立排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で体操・マッサージを行なっている。毎10時のコーヒータムの時間にはオリゴ糖を使用している。食物繊維も多く取り入れるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本に入浴をして頂いているが、希望者にはできる範囲で対応を行なっている。便汚染や普段入浴を拒否される方が希望された時は対応を行なっている。	週2回を基本とし汚染等のある場合は即対応している。入浴拒否の人に対してはタイミングを見て声かけや誘導を柔軟に実施されている。調査時も身繕いや体臭など気になる方は皆無であった。室内環境は快適温度に調整されている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を優先し日中はレクや体内時計が狂わないよう日光浴を行ったり、また就寝前は落ち着く環境作りを行なっている。個々の状態に合わせ昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後に処方された薬の説明書を確認し、特に新たに処方された薬については口頭で説明を行い、その後の状態について観察を行い、Drに報告を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味を持っている事(家事、園芸、学習、工作等)に参加してもらい生活に張り合いを持てるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のボランティアの方と外出の支援を受けたり希望の方には、気候に応じて行なっている。また、グループに分かれ買い物や外食に出かけている。	地域のボランティアの協力もあり散歩や買い物、時には外食、車でドライブなどと変化を持たせ気分転換を図っている。当初は集団行動に時間をとっていたが今はチームワークよくスムーズになったとのこと。庭に出て日向ぼっこや花の水やりなどもされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけた時は、能力に応じ支払いをして頂いたり、物を選んで頂いている。常に持つことを希望されている方は自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればスタッフが電話の介助を行っている。手紙はポストに入れるお手伝いや一緒にポストに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先の花壇には季節の花を植え、畑には季節に合わせた野菜を育てている。また今年から壁画委員を作り、月毎に合わせた壁画作りや環境に対し気配りを行なっている。	共用空間はソファなど適所に置かれ、創意工夫で温かい空間がある。玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等すべて居住者全員の大家族住宅の趣でまとめられている。壁画委員・環境委員などの活動で庭には花壇あり、居間には手作りカレンダー、ぬりえ、写真なども掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前や、ローカにソファを置き独りでもくつろげる空間を作ったり、気の合った利用者同士と食席を隣同士にしたりと工夫を行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具や鏡台・仏壇・写真等を持ってきて頂き、落ち着ける空間作りを行なっている。	居室はシンプルに整理整頓されている。居室の表札は1階は鳥の名前、2階は花の名前と氏名が記されている。地震時想定の上段・落下物の配慮もある。仏壇・鏡台を持ってこられている人もある。足元は整然とし転倒防止の配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前に名前を掲げたり、トイレが分からない人の為に大きく「トイレ」と書き示している。		